

● 事例 ●

新一年生のための「ヒロガク教養講話」 ～初年次教育の新しい取り組み～

荒木 関 堅 二

(弘前学院大学 入試広報センター長)

はじめに

弘前学院大学（吉岡利忠学長）は、本州最北端の青森県の西南、津軽藩城址がある弘前市に位置している。学校法人弘前学院は長い歴史を有し、一八八六（明治一九）年、青森県における最初の女子普通教育の学校として、キリスト教主義教育の先駆者である本多庸一氏によって創設され、今年で一二五年目を迎えている。

本学は建学の精神「畏神愛人」（神を畏れ人を愛すること）に基づき、文学部・社会福祉学部・看護学部の三学部と文学研究科・社会福祉学研究科（修士課程）の大学院を有す

る大学で、清新で専門性の高い教育と研究を通して、幅広い文化の創造と保健医療・福祉の向上のために、地域や国際社会で活躍できる人材を育成している。

標題に対する取り組みの経緯は、二〇〇七年度三月に開催した入試戦略会議（メンバーは学院理事長兼学院院长、学長、文学部・社会福祉学部・看護学部教員各一名、大学事務長、入試広報センター長の七名、月一回の開催）において、吉岡学長から次のような学生に関する問題提起が始まりである。

(1) 一般的に、わが国の大学を取り巻く問題の一つに、学生の学力、学習意欲の低下がある。

(2) 高校から大学の専門分野へのスムーズな移行がなされていないため、将来についての目的、目標が定まらずに学習の動機が見つからない学生が少なくない。

(3) このような学生の現状は全国的に深刻な問題となっている。二〇〇七年三月に、この問題を話し合う全国的な組織として「初年次教育学会」が設立された。

この問題解決策として、新一年生のための「ヒロガク教養講話」が誕生した。この新しい取り組みについて紹介する。

一 「ヒロガク教養講話」の目的等について

この入試戦略会議において、学長がこの問題解決には初年次教育や学士教育の研究が重要と言及し、初年次教育の一貫として「教養講話(仮称)」の新設を提言した。これを受けて審議が行われ、「教養講話(仮称)」の骨子が次のように決まった。

(目的) 全学部新入生を対象として、学習意欲や動機付け、入学目的意識の向上、教養と専門性を備えた知性豊かな人間形成、社会の一員として活躍できる人材を育てるとともに、三学部の学生が一つの教室で学ぶことで学部間
の交流を推進する。

(1) 二〇〇八年度から開設。講座名称は「ヒロガク教養講話」とする。

(2) 毎週一回の開催とし、年間一五回程度を予定。

(3) 講義日は木曜日、講義時間は「礼拝」終了後の午前一一時一五分から開始、四五〜五〇分間。講義場所は四一四教室大講義室。

(4) 講話講師には、弘前学院理事長、学長、三学部教員、事務職員、外部の企業代表等が担当。

(5) 講義内容は、講師担当者に係わる専門分野や得意とする分野とし、分かりやすく講義する。

(6) 単位認定は行わない。教科書は無し。

(7) 受講する学生は簡単な感想文を提出する。

二 「ヒロガク教養講話」の実施内容について

最初の第一回講話が二〇〇八年五月八日に、学長の担当で、タイトル「人体の小宇宙」で開催された。二〇〇八年度の実施内容は、図表1・写真のとおり。一二年目の二〇〇九年度は、外部講師による講話を増やすなど若干の変更を加えて、(2)のとおり実施した。

(1) 二〇〇八年度の実施概要

① 五月から一〇月までの年間一五回開催。

- ② 講話担当者は、弘前学院理事長、学長など計一五名。
- ③ 講話のタイトルは多様であり、保健医療福祉の分野、経済、理工、文化など、広範囲の内容となっている。
- (2)二〇〇九年度の実施内容
- ① 実施回数は、前年度と同様に年間一五回の開催。外部講師は、前回より増えて三名で計一五名。
- ② 講話タイトルは、「早寝・早起き・朝ごはん」「大志」「地域文化の発掘と発信―山伏神楽（鐘巻）の復原と鑑賞―」「学びの意味」「英語の辞書の世界」「福祉を学ぶこととは」「ボディイメージの変化とその援助」「音楽美の解明」「日本の中の青森県」「時代の大転換期に



第1回の学長による講話

2008(平成20)年度 一年生(新入生)のための『ヒログク教養講話』 (木曜日 11時15分～ 45～50分間) (414教室 大講義室)

開講日	講話担当	タイトル
1 5月 8	学長	人体の小宇宙
2	15 弘前学院理事長	社会人基礎力
3	22 文学部長	地域文化の発掘と発信 ―津軽神楽<巖折>の復原と鑑賞―
4	29 看護学部長	人間の価値
5 6月 5	文学部 准教授(入試戦略会議委員)	<分ける>ことからはじめよう
6	12 社会福祉学部 教授(入試戦略会議委員)	いい加減あるいは適当に
7	26 英語・英米文学科長	翻訳について考える ―村上春樹の翻訳を中心に―
8 7月 3	看護学科長	ボディイメージの変化とその援助
9	10 社会福祉学科長	福祉を学ぶこととは
10 9月 25	事務長	人にやさしいコンピュータ ―ヒューマンインターフェイス―
11 10月 2	総務課長	事務屋の喜び・悲しみ
12	9 東北化学薬品㈱ 代表取締役	日本の中の青森県経済に関して
13 16	日本語・日本文学科長	現在、地上最強? ―現代日本のマンガと文学
14 23	入試広報センター長	金属の不思議 ～鉄は熱いうちに打て～
15 30	看護学部 教授(入試戦略会議委員)	知っているようで知らない女・男のセクショナリティ

図表 1

において岐路に立つ我が国の安全保障―自分史から見た我が国の安全保障の現在・過去・未来―など。

三 「ヒロガク教養講話」の学生感想文について

高校から入学したばかりの新一年生にとって、幅広い分野の講話担当者による講話を受講し、どのような感想を持ったのか。受講した学生の感想文に書かれている特徴的な語句を挙げると次のとおりである。

・「初耳」「人間性を高めて」「人間関係の大切さや働くことの大変さ」「人の立場になることが最初のケアだ」「毎日行きたいと思える仕事に就きたい」「一生懸命学ぼう」「日本の文化はすばらしい」「人体の神秘を感じた」「低確率で生まれた命」「すごく勉強になった」「望まない妊娠を避ける」「この世に生まれたことを親に感謝」「目標をもって過ごしたい」「学ぶことの本当の意味」「授業とは違う形で多くのことを考えさせられた」など

おわりに

初年次教育及び学士教育の一環で企画された「ヒロガク教養講話」について、大多数の学生がいろんな分野の講話を聞く機会が与えられてよかったと述べている。受講によ

って、以後の大学での学びや学生生活に実際に生かされるかどうかは学生個々に差があるが、この講話による効果は十分期待できると考えている。この講話に対して、地域の高校から好評を得て注目されている。

今後の課題としては、「ヒロガク教養講話」という科目としての単位認定である。二〇〇九年度現在、この講話は文学部・社会福祉学部・看護学部とも、科目「基礎演習」の中の一単位分として出席数と感想文を評価（学部によって扱いの差）している。

本学が新しい取り組みとして「ヒロガク教養講話」を新設した理由は、学生特に新一年生に対して、入学目的意識の涵養、学習意欲の向上等を図る指導によって、望ましい学生生活を送ってほしいという願いを込めている。

一八歳人口の減少が進んでいる状況から、地方私立大学の生き残りには、大学の特色や特徴ある教育とともに学生の活性化が必要不可欠と考える。本学は今後とも学生一人ひとりを大切に、より適切なカリキュラム作りの推進を模索していきたい。